



2001.7.16  
第115号

編集・発行  
福島県教育庁  
会津教育事務所  
峯島和彦  
編集協力  
沼会  
両協  
麻耶  
津会  
地教  
委中  
小・中  
学協  
校長



# 郷土の誇りと理解

福島県教育庁会津教育事務所長 峯島和彦

当教育事務所勤務も二年目となり徒歩通勤が多くなってきた頃、毎日通っている鶴ヶ城追手門前の北出丸大通りに、戊辰戦争終結の地を示す案内板が立っていることに初めて気づいた。付近の道路で行われた降伏式では、西軍代表の席に敷かれた緋毛氈を会津藩士たちが細かく切って懐中深く持ち、この屈辱と無念を忘れない様にと「泣血氈の誓い」を立てたということである。

また、戊辰戦争後に藩の全責任を負って切腹した会津藩家老萱野権兵衛の次男郡長正は、当時新しい学風で知られた小笠原藩校「育徳館」(現在の福岡県豊津)に留学生として派遣された。ある日、郷愁の念にかられて書いた母への手紙に、一言食べ物のみずさを付け加えた。母からは戒めの返事が届いたが、この手紙を拾って読んだ小笠原藩の子

弟らが公衆の面前で彼をのしり、会津の武士道を疑った。長正は会津の名譽を守るため、やがて行われた剣道対抗試合に主将として立派に勝利を納め責任を果たした後、弱冠十六歳で切腹して果てたのである。これは明治四年に起きた事だが、彼の行動は、会津に脈々として受け継がれてきた武士道の考え方が原点であり、正に会津士魂に殉じたものである。今でも地元福岡の学校では、彼の命日の五月一日に行事として「郡祭」を催し、学校を挙げて郡長正の顕彰と供養が行われている。

これらについて、私は当地に来て初めて分かった事であるが、先日ある研修会の席上でこの事を話題にすると、参加者のほとんどが会津出身であるにもかかわらず、大部分が分からないという状況であった。これをもって一事が万事ということではないが、少なくとも会津の地に生まれ育ち、

郷土の文化と伝統、またその歴史的価値が分かかって社会に出る者としてでない者との差はかなり大きいはずである。戊辰戦争後、残された会津藩士たちが本州最果ての地「斗南ヶ丘」に移封され、言語を絶する辛酸をなめたという事実、その逆境の中から身を立て、努力を重ねて明治政府の高級官吏・県知事、更には軍人の頂点まで昇りつめた人物などが数多く輩出されていることは、郷土の誇りとしてぜひ子供たちに伝えておくべきものであろう。

明治の学制公布以来、三度目を迎えた今回の教育改革では、郷土愛や世界の中の日本人としての資質が求められている中で、自分の生まれた郷土を理解し、子供たちに誇りと勇気を持って課題に立ち向かう力を培うことは、今、大切な教育内容の一つであると思う。

## 平成十三年度 会津教育事務所学校教育指導の重点

本年度の教育事務所「指導の重点」は、県教育委員会の「第五次福島県長期総合教育計画」に基づく重点施策や昨年度の管内学校教育指導の成果と課題等を踏まえて設定しました。各学校においては、指導の重点の自校化を図り、教育活動のより一層の充実を図るとともに、諸課題の解決に向けての主体的な取り組みをお願いいたします。

○ 道德教育の充実  
○ 家庭・地域社会と連携し、教育活動全体を通して、生命の尊重、正義感、思いやりなどの指導を重視し、心の教育の充実を図る。

三 生徒指導の充実  
○ 積極的な生徒指導の機能を学校全体にいきわたらせるとともに、校内の指導体制を確立する。  
○ 自校の生徒指導の課題(いじめ・不登校・非行等)を明確にして、学校不応問題の解決を図る。

四 教職員の資質・能力の向上  
○ 各種研究指定校や幼小・中教員の研究推進を充実し、教職員の研修を一層活発にするとともに、研究成果を普及させ、教職員の資質の向上を図る。  
○ 各学校の校内研修を一層充実させ、教職員個々の指導力の向上を図る。

一 基礎学力の向上  
○ 市町村教育委員会の基礎学力向上推進会議が中心となつて学力向上推進支援事業を展開する。  
○ 実態把握を基に課題を明らかにして、児童生徒一人一人に基礎学力が身に付くように学習指導の工夫と改善を図る。

○ 新しい教育課程を踏まえ、学校課題解決のための実践ポイントの焦点化、全職員での共有化を図られるように、各学校の自校プランを改善する。  
○ 日常的な学習指導の充実に努める。

二 道德教育の充実

# 管理課重点事項

学校事故・教職員の事故防止につきましては、各市町村教育委員会や各学校にご努力をいただいておりますが、今後、更に学校事故の絶無に向けてなお一層の努力をお願いします。

## 一 教職員の事故防止

- (1)信用失墜行為の絶無
- ・飲酒運転や体罰、セクシャルハラスメント、わいせつ行為等の絶無を期すため、「高い倫理観と自立心を求めて」の徹底を図る。
- (2)交通事故防止
- ・交差点での事故や追突事故が発生しているので、左右確認の励行や緊張感をもって運転する。
- (3)教職員の負傷事故の防止
- ・教職員のアキレス腱断裂が本年度は非常に多くなっておりま

## 学社連携・融合で子どもに「生きる力」を

平成十四年度からの、学校週五日制の完全実施に向けて、子どもに「生きる力」を培うために学校教育・社会教育のそれぞれの立場から様々な取り組みがなされている。

## 生涯学習だより

社会教育では、「全国子どもプラン」がその中核となる事業である。平成十三年度までに地域で子どもを育てる環境を整備し、親と子どもたちの様々な活動を支援する体制を整備することを目標として策定されたものである。「生きる力」を育てるために、地域社会での豊かな体験活動を地域・家庭・学校が一体となって支援することが求められている。

す。運動の前には準備運動をしっかりと行う、自分の体力の過信をしない。

## (4)教職員のメンタルヘルス

・教職員が一人で悩みを抱え込まないで何でも話し合える、何でも相談しあえる職場づくりに努めるとともに、教職員相互のアンテナを鋭くし早期発見・早期対応に努める。

## 二 学校事故防止

- (1)学校火災・盗難事故の防止
- ・空き教室・特別教室・物置等の整理整頓に努めるとともに、校舎周辺の可燃物の撤去を徹底する。
- ・児童生徒からの集金は適正執行に努め、現金は学校に絶対おかない。
- ・多発する不法侵入や器物破損等を防ぐために、校舎の完全な施錠及び鍵の保管を適切に行うとともに、外来者の出入りについて

今、学校教育では、「総合的な学習の時間」が試行されている。これは、平成十四年度から完全実施（高校は二〇〇三年度から）の「ゆとり」の中で「生きる力」を培うことを全面に掲げた新学習指導要領の実施に伴う新しい教育活動である。地域の特色ある「自然体験」「生活体験」等の体験活動が主な活動内容である。

これまでに「通学用品箱」「職場体験学習」「地域学習」等特色ある活動が展開され、大きな成果を上げている。

これらの推進にあたっては、多くの地域の方の参画が不可欠である。更に、地域・家庭・学校の三者がそれぞれの役割を明らかにして、分担・協力し、できることから連携・融合することが求められている。「学社連携・融合」により得られる主な

て特に注意すること。

- ・重要な書類等は、個人情報保護の面からも、紛失したり校外に持ち出したりすることの無いようにする。

## (2)施設設備の安全管理

- ・学校プールの管理運営については、常に細心の注意を払い、事故を未然に防止するよう努めること。特にプール薬品の管理方法について共通理解を図ること。
- ・石油の地下タンクやホームタングの残量メーター等の日常点検をすることともに、毒物・劇物の保管についても、特に意を用い、異常の早期発見に努める。

各学校の事故防止マニュアルを見直すとともに、一人一人の教職員の危機管理意識の向上を図り事故防止に努める。

万が一事故が起こったときは第一報を速やかにあげること。

## 成果として

- ア 学校教育の充実とスリム化
- イ 社会教育の活性化
- ウ 学習コミュニティの形成等が上げられる。

「学社連携・融合」による活動の充実・発展が、子どもの「生きる力」を育てる大きな鍵となる。県では「学社連携・融合フロンティア事業」等を中心として、事業の推進及び啓発活動に取り組んでいる。学校・社会教育の関係者が、これらの事業を通して、研修を深め、それぞれの立場で、学社連携・融合による

事業を積極的に展開し、子どもに「生きる力」を培っていくことが望まれる。



# スクールパートナー制の試み

喜多方市立熊倉小学校

## 特色ある学校紹介

本校は、「心ゆたかでありぬく子」を指針とし日々の教育活動を展開している。

総合的な学習では「子どもが主体的に取り組む活動の創造」を研究テーマとし、

- (1)地域のよさを生かす支援
- (2)児童のよさを生かす支援

の二つの「支援」に視点を当て研究を進めてきた。児童一人一人の思いや願いを明らかにし、それを支援し多様な活動に応じていきたい。これら一人一人を伸ばす一連の活動を充実するためには、複数の指導者又は、指導の補助が効果的であると考えた。そこで、平成十二年度から、総合的な学習の時間を中心に、外部講師だけでなく保護者講師が、授業に参画する「スクールパートナー制度」を導入した。そのねらいを

- 地域人材の積極的な活用
- 地域の教育力の伸長
- 参加者の生涯学習

とし、PTA総会時など、年度始めから主旨についての理解と参加要請に努めてきた。

さらに、学年ごとに予想される協力場面を洗い出し、具体的な形で協力依頼をした。

その結果、水泳記録会でのお母さん方の計時協力、マーケツト見学・ミシン学習の際の各班への指導、また、お父さんの特技を生かしたトランペット指導、

町内の海外生活経験者との英会話体験・竹細工制作など、のべ百四十人の支援を頂き、予想以上の協力と成果を得ることができた。

これによって児童は、さまざまな特技を持つ保護者の心に触れ、真剣に活動し、かけがえないものとして地域の良さを味わっている。さらに、これらの体験を通し家族だけでなく地域の方々が自分達を見守っていることを肌で感じることもできた。

今後は、連携のあり方・協力方法・内容などについて一層充実を図り、「ふるさと熊倉は美しい」という大テーマのもと、熊倉ならではの「地域に根ざした総合的な学習」を展開し、何事にも主体的に取り組む児童を育成していきたいと考える。



トランペット指導

# 私の実践

## 心を育てる授業をめざして

柳津町立柳津小学校 教諭 伊達明美

「もっと自分に自信を持って郷土柳津に誇りをもってほしい」という願いから実践は始まりました。不登校傾向にあるNとまわりの子ども達に「自分や友達、家族、地域を大切にすることを育てたい」と、総合的な学習と道徳授業を通して、心の教育に取り組みました。

道徳教育の具体的な活動実践の場として総合的な学習を構想し、ふるさとキャラバン隊の学習では「もつ↓深める↓伝える↓生きる」各段階での体験活動に道徳授業での思考活動を結びつけるようにしました。もつ段階では、生命尊重の心を育て、総合的な学習の方向づけ

ができました。Nは誕生の仕組みを調べながら、自分や友達への命の尊さや家族の思いに気づくことができました。

深める、伝える段階では、友情・信頼について考え、Nも子ども達も、互いに信頼し合って太鼓演奏をする実践により、道徳的価値をさらに内面に根ざしていきました。Nは、初めて友達から必要とされる喜びを知りました。子ども達は、一人一人みんなが大切であることを学びました。

役割を自信をもって果たしました。その後もNや子ども達と地域の方との交流は続いています。一年間の実践を通し、Nが毎日登校し、学習活動によって心育で、学級での立場を築いていったのが印象的でした。子ども達自身が体験や活動から、道徳の資料・課題を提示する試み等、新たな視点をももち、今後、心を育てる授業に励みたいと思います。



～友達を信頼することの大切さを体験した柳津福満太鼓演奏～

## 教育相談だより

会津教育事務所 佐藤 輝雄

平成七年に相談業務を開設して七年目になります。電話相談(ダイヤルSOS)と訪問相談の両方について、学校教育相談員三名での対応です。

### (1)電話相談

相談の内容は学校教育、家庭教育、子ども達の養育、その他と多岐にわたっています。昨年度の電話相談では、内容別にみますと、小学生では、学校や学級担任への要望のかたについてや、いじめ、不登校についての相談が多く、中学生では、不登校・いじめや非行問題等が多い順になっています。

相談の基本は、まず話しをよく聴くこと、肝心なところは繰り返す、整理して聴くことにあります。電話相談は秘密の厳守を大前提にして対応しております。即答を求めると相談も多い。電話(フリーダイヤル) 〇二二〇一八九九七二四

### (2)訪問相談

学校教育相談員は、北会津地区、耶麻地区、両沼地区と地区担当を定めて、直接小・中学校を訪問し、児童・生徒を中心に相談活動を行っております。不登校の児童・生徒を生じさせないための予防的な手だてや、不幸にして、不登校に陥ってしまった児童・生徒には、その子に応じた対応等についての話し合いを進めております。

各小中学校の全ての学校を訪問し、学校の事情に応じては、二回、三回と訪問を重ねる場合もあります。不登校の原因特定は難しい。諸々の要素が複合している場合が多いようです。訪問相談への各学校の対応では、学校の事情にもよるでしょうが、可能な限り当該者との話し合いを望んでおります。不登校対策を生徒指導の重要課題と位置づけられている学校が多くみられます。一名でも多く減少させたいと強く望んでおります。

## 地域に学ぶ

### 史跡活用と町づくり

磐梯町教育委員会 磐梯山慧日寺資料館

磐梯町は、過疎対策と町の活性化に向けたリゾートの町づくりと史跡慧日寺跡の保存・活用をめざした町づくりを重点に据え「協調と活力ある文化の町づくり」を基本理念としています。

リゾートのある町づくりは特に冬季間のスキー客を中心に賑わっており、温泉保養施設も多く人々に利用

されています。史跡慧日寺跡の保存・活用は、発掘調査が第十七次を迎えて往時の中心的建物跡の概要も明らかになり、史跡整備の段階になっています。

この事から磐梯町は二十一世紀に相応しい個性と特徴ある町づくりをめざして



徳一廟

います。史跡慧日寺跡は、今から千二百年前一人の僧が会津の磐梯山に思いを馳せて寺院を創建したことに始まり、寺院は学問の寺、更には仏教を広める寺として栄枯盛衰を辿るものの会津仏教文化を高めてきました。



磐梯山慧日寺資料館

磐梯山を奥の院として成立した慧日寺は、大同三年(八〇七年)に僧徳一が開基した寺で創建時代が明らか寺院としては東北的には最古です。貴重な歴

史的文化遺産を後世に残すため、焼失した建物の礎石が現存し一帯は国史跡に指定し保存されています。

課を設置し昭和六十年より史跡整備を目的に保存修理を図るため発掘調査等を実施して来ました。更に史跡のガイダンス施設として昭和六十二年には磐梯山慧日寺資料館を開館し慧日寺に関する資料・展示を行っています。多くの歴訪者の皆さんをお待ちしております。

# 私の抱負

## 子どもの目線で

会津坂下町立片門小学校  
校長 松山善之



片門小学校に就任すると同時に幼稚園の園長の辞令をいただきました。

戸惑いの中にも新しい発見が多く、毎日が感動の連続です。幼稚園の先生は、園児に話をするときには子どもの目線に立って語りかけます。

論ずるときは、先生が園児より低い目線で優しく話しかけます。自分自身のこれまでのことを反省すると共に、これが子どもと心をつなぐ原点であることを再認識しながら幼小連携を図りたいと思います。



## 心に残る人々

会津若松市教育委員会教育長 高石寛治



二十年程前の担任のクラス会が今も続いている。

反抗や暴言などは茶飯事。不登校生も多かった。種々の要因で心がすさみがちだった生徒に、思いが伝わらない苦しさ、虚しさを内心皆が味わっていた。逃げまい、とこ

## 新任教頭として

北塩原村立裏磐梯中学校  
教頭 星裕次郎



蒼く澄んだ檜原の湖に映しだされた磐梯山は、赤茶けた爆裂火口が

今も生々しい。その麓に生活する四十六名の個性豊かな子どもたちと、それを支え育んできた教師の、明るく活気に満ちた学校がある。静と動の共生するこの地で、自分に何ができるかを問い、再起をかけ無我夢中の日々が続くが、子どものための学校、地域に生きる学校の役割を実践したいと願っている。"We teach children."

We can change the world." そう胸を張れる熱いハートを持った教師を目標に。



## 子どもと共に

会津若松市立第一中学校  
教諭 小澤建一



自分の夢であつた教師。会津という新しい土地で始めることに、

希望で胸を膨らませていた四月。あれから三ヶ月がたった。毎日子どもたちの笑顔を見て、授業や部活を通してふれあいながら、この仕事を一生続けていきたいと燃えているところである。

子ども達と共に、新しい自分に出会える授業をしたい。一人ひとりの個性を伸ばして、自分に自信をつけさせてあげたい。この二つは、教師になると決めた時から今も変わらぬ目標である。子ども達にとって楽しい授業であるために、子ども達の視線に立ち、共に学んでいきたいと日々考えている。

今もクラス会が楽しみだ。あの時、何を伝えたか覚えていないが、そんなことはどうだっていい。級友同士が学び高まり合う雰囲気は何ともいい。結婚するので仲人を、祝辞をと、かの生徒から依頼を受けるが、君に祝辞などないわい、僕は君達を担任して十年位寿命が縮んだんだよ、などと冗談を言いつつも、万障繰り合わせ出席することになっている。彼らに何か掛け替えのないものをいただいたと思うからだ。

## 長ろうガメ

熱塩加納村立熱塩小学校  
五年 遠藤弘樹



〈指導の工夫〉  
本人の飼っているカメが長生きしてほしいという願いを生かし、会話でイメージを広げさせた。彫刻刀の使い方を知らせ、自分なりの使い分けで表現を工夫させた。多色刷では、主となるカメから色をつけて、全体のバランスを考えながら、色付けの楽しさを味わわせ作品を仕上げさせた。

指導者 菅家重子

## 作品と指導

工作



## キョウリュウをつくったよ

会津若松市立諫教小学校  
一年 荒池智太

〈指導の工夫〉  
粘土を卵の形に丸め、そこから、粘土をのぼしたり引きだしたり、つけたりして好きな動物を作らせた。

粘土遊びが大好きな智太君は、指を上手に使い、キョウリュウの体のでこぼこ感を表現することができた。大きな卵からかわいいキョウリュウが誕生した瞬間である。

指導者 河野恵美

習字

## 黒潮

大沼郡三島町立三島中学校  
三年 五十嵐麻由

# 黒潮

三島中 五十嵐麻由

〈指導の工夫〉  
手本を基に自己課題を明確にして取り組ませた。この生徒は、「文字の大きさや配列に気を配る」という課題を持って繰り返し練習を重ねており、調和のとれた作品を仕上げることができた。

指導者 齋藤志津子